

面接試験に向けての準備

1月16日（火）1限、1月18日（木）1限に入試で面接試験がある人を対象に実際の形式に近い面接練習をします。担任の先生から面接試験の心得を説明し、よくある質問集を渡しました。質問集に答える内容を書くだけでなく、実際に声に出して練習することが大切です。必ず家で準備をしてきてください。練習を重ねることで自信をもって話すことができます。

以下に、面接試験におけるポイントを伝えます。

① 大きな声でハキハキと話す

面接会場において面接官と受験者の距離が離れている可能性があります。ぼそぼそと小さな声で話しては面接官に聞こえません。普段よりも声を張って、大きな声でハキハキと話しましょう。みなさんの気持ちを自分の声で面接官に伝えることが大切です。

② 目線・姿勢に気を付ける

緊張すると目線がキョロキョロしてしまいがちですが、落ち着きがない印象になります。話すときは質問をした面接官の顔を見て答えてください。集団面接で他の受験者が答えているときは、自然に前を向いておきましょう。また、手遊びをしたり、髪の毛を触るのも印象が悪いです。手は膝の上にきちんと置きましょう。お辞儀の仕方、立ち位置など、以前に配付した説明プリントを再度読んでおいてください。

③ 志望動機への答え方

志望動機は質問されることが多いです。そのときに「学力が合っているから」と答える人がたまにいます。これは大変失礼です。学力が合っているかどうかは高校側が判断することです。また、「家から近いから」とだけ答えるのも不十分です。みなさんはその高校の特色や印象などに魅力を感じたから選んだと思います。高校の特色などに触れて答えましょう。

④ 高校で頑張りたいことを聞かれたとき

高校で頑張りたいことを聞かれて、「バイト」「遊び」を答えるのはNGです。「部活を頑張りたい」と答える場合は、勉強と両立していくという点も付け加えましょう。あくまでも高校へは「より高度な学習」を求めて進学します。

⑤ 答えられない質問のとき

想定外の質問が出てとっさに答えられないとき、何も言わずに黙ったままではよくありません。考える時間が欲しいのであれば、「すみませんが、少し考える時間を下さい」と伝える。その場合も、考えるのは30秒程度に留めましょう。わからなければ、素直に「わかりません。」と答えましょう。

⑥ 答えなくてよい質問のとき

家族構成や家族の職業、健康状態、宗教、家の大きさや住宅環境、尊敬する人物、読んでいる本など、入試に関係ないことや個人の思想に関わること、差別につながる可能性があることを面接で質問するのはNGです。万が一高校入試でこのような質問された場合、「その質問には答えられません。」と返答してよいです。

こういった問題がなかったかどうかを調べるために面接内容調査を行います。面接試験がある人には入試直前に調査用紙を渡しますので、試験後に質問内容を記入して中学校に提出してください。

心がけて欲しいこと

私立受験が近づいてきました。勉強をすること以外に、心がけてほしいことが2つあります。

1つ目は、早起きの生活リズムを作ってください。高校は中学校ほど近くないので、入試当日は、普段よりも早く起きなくてはならない人が多いでしょう。当日だけ早く起きるというのでは、早起きに体が慣れておらず、1限目からしっかりと頭がはたらかないかもしれません。入試当日は、集合時間の30分前には高校に着くように家を出ることになります。そこから逆算したら、何時に起きないといけないのかわかります。今からその時間に起きる習慣をつけていきましょう。夜遅くまで頑張るのではなく、早起きした分を朝に勉強してみてください。入試の時間帯に集中できるように、土日も含めて生活リズムを朝型にしましょう。

2つ目は体調管理です。感染症だけではなく、これから寒くなると風邪もひきやすくなります。こまめに手洗い、うがい、換気を心がけましょう。風呂上りの湯冷めやうたた寝、おやつやジュースなどの暴飲暴食から体調を崩すケースもありますので、注意しましょう。体調を崩すとしんどいのはもちろん、予定している計画にも影響が出ます。ベストコンディションを保てるように、体調管理にも十分気を付けましょう。また、食欲がなかったり体調が悪いときは、無理をせずに早めに寝るなどして休養しましょう。